Back Number

本論文は

世界経済評論 2018 年 7/8 月号

(2018 年 7 月発行)

掲載の記事です

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊=7,920円 ▶ 6,600円 税込
17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典
定期購読期間中 デジタル版バックナンバー ※通巻682号以降 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

中小企業のリバース・イノベーション

日本大学生物資源科学部教授　朽木 昭文

［編著者］
吉田健太郎（よしだ・けんたろう）
　立正大学経営学部教授
［発行］同文館，2018 年 3 月刊
［判型］A5 判・ヨコ組・324 ページ
［定価］本体 3200 円＋税

1985 年の「プラザ合意」により円高が進むと，日本の電機・電子産業や自動車産業の大企業は，アジアに進出した。労働集約型産業が低賃金労働を目的とした。大企業は，イノベーションを創出できなく，進出した国に顧客満足をもたらす製品技術を開発できない場合でさえあった。

こうしたなかで，本書は，敢えて「中小企業」に焦点を当てた国際経営の体系的な理論の構築を目指した。中小企業の海外展開を「イノベーション」の機会ととらえる。本書の特徴は，学際的である点にあり，国際経営論，ベンチャービジネス論，経営戦略論，管理会計，経営法，人的資源管理，中小企業論を総合する。また，現地調査に特色があり，現地調査で訪問した国が 12 カ国，聞き取り調査を行った企業は，55 社である。本書は，3 部で構成され，第 1 部が理論編，第 2 部が 6 章のケーススタディ，第 3 部がまとめである。

Govindarajan Vijay が定義したリバース・イノベーションとは，「近年のグローバル規模で活動する多国籍企業が，『イノベーション』を新興国で起こし，本国も含めた他のロケーションで活用することが可能な競争優位性の源泉を得ているもの」である。本書は，日本の中小企業が途上国・新興国において進出国の子会社などの現地拠点において，現地発のイノベーション活動が起点となり，本国あるいは第 3 国にシフトする現象と広義に定義する。

本書の産業集積は，拡大したバリューチェーンを意味する。本書の結論として，(1) リバース・イノベーション実現に必要となる条件として，提供価値そのものや組織面諸要素を抜本的に変化させる，産業集積を能動的に活用する，サービスの高度化に取り組む，現地人材に権限を与えるなどを挙げた。(2) 開発すべき人的能力として，「起業家精神，吸収能力，ネットワーク力，機動力など」を挙げた。また，(3) 能力構築のための仕組みとして，「マニュアル・図面・レシピなど移転させたい知識を可視化する，駐在員並びに現地人材に対する権限移譲を行う」などを明らかにした。

これらの結論は確かに本書が目指した「実践的な研究」の成果である。本書が取り上げたテーマはまさに今現在において研究の対象となるべきである。ベンチャー中小企業の海外進出におけるイノベーションは，今後の日本企業の成果として多いに期待できる。本書は，企業家にも研究者にも，またこれから社会に出る学生にも必読の書である。こう断言できる。

（くちき　あきふみ）